

Economic Indicators

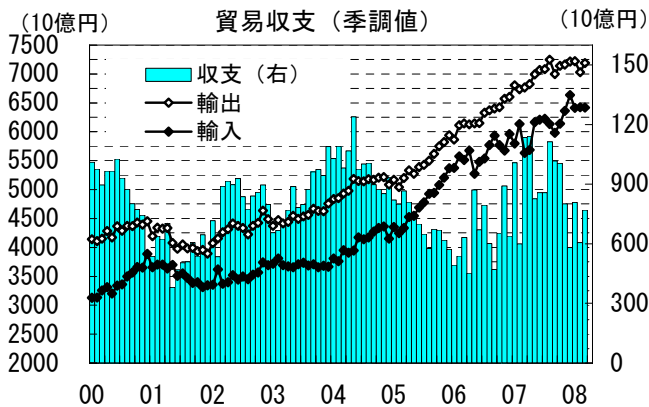
定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2008年3月)

発表日2008年4月23日(水)

～中国向けの減速を背景に輸出の伸びは低下～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 柵山 順子
TEL: 03-5221-4548



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
08年3月	1134	6767	5632	1603
4月	1142	6827	5685	903
5月	826	6994	6168	396
6月	858	7065	6208	1246
7月	857	7084	6226	682
8月	1113	7246	6133	744
9月	1017	6998	5982	1609
10月	1005	7143	6138	999
11月	800	7163	6363	784
12月	582	7216	6635	867
08年1月	809	7222	6413	-90
2月	605	7032	6427	966
3月	770	7187	6417	1119

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
07年3月	10.3	9.5	0.7	▲ 4.3	▲ 3.7	7.4	0.6	8.0	▲ 6.8	8.8	0.7	▲ 13.0
4月	8.2	7.8	0.4	▲ 13.1	6.5	7.1	3.8	10.9	▲ 6.4	21.3	▲ 0.4	▲ 4.9
5月	15.2	8.4	6.2	▲ 13.3	8.8	12.2	15.4	14.8	0.5	12.5	8.7	2.0
6月	16.2	9.7	5.9	▲ 8.4	7.8	13.5	10.4	17.2	▲ 5.8	▲ 4.5	4.9	▲ 5.2
7月	11.7	9.0	2.5	▲ 10.5	2.6	10.6	16.7	17.1	▲ 0.3	6.0	15.1	1.4
8月	14.6	5.8	8.3	▲ 5.0	4.6	13.1	5.8	12.0	▲ 5.5	▲ 10.7	▲ 0.4	▲ 5.1
9月	6.3	▲ 0.0	6.3	▲ 12.2	8.7	7.5	▲ 3.0	6.3	▲ 8.8	▲ 7.7	0.2	▲ 10.8
10月	13.8	▲ 0.7	14.6	▲ 3.2	21.5	14.4	8.7	11.4	▲ 2.4	8.1	6.7	▲ 1.9
11月	9.6	▲ 1.6	11.3	▲ 5.8	6.1	14.8	13.3	13.6	▲ 0.3	1.1	6.6	▲ 0.6
12月	6.8	▲ 0.8	7.7	▲ 13.4	4.4	10.4	12.3	16.6	▲ 3.7	14.6	▲ 5.9	▲ 2.4
08年1月	7.7	▲ 2.4	10.4	▲ 17.8	22.8	9.8	9.2	10.8	▲ 1.6	▲ 3.3	▲ 1.0	▲ 0.2
2月	8.7	▲ 5.2	14.7	▲ 5.0	15.7	16.7	10.2	14.6	▲ 3.9	3.3	▲ 3.8	▲ 7.3
3月	2.3	▲ 2.7	5.2	▲ 3.8	9.8	4.6	11.1	10.6	0.5	▲ 2.7	6.9	6.9

○3月の貿易収支は大幅に前年比マイナス

3月の貿易収支は1兆1,186億円(原数値)、前年比▲30.2%と大幅に前年比マイナスとなった。輸出金額をみると、前年比+2.3%と前月(同+8.7%)から伸びが減速した。一方、輸入金額をみると、内需の伸び悩みを背景に輸入数量は前年横ばいに留まっているものの、原油価格高騰の影響がそれを上回り、前年比+11.1%(前月同+10.1%)と高い伸びが続いたため、貿易黒字は大幅に縮小した。

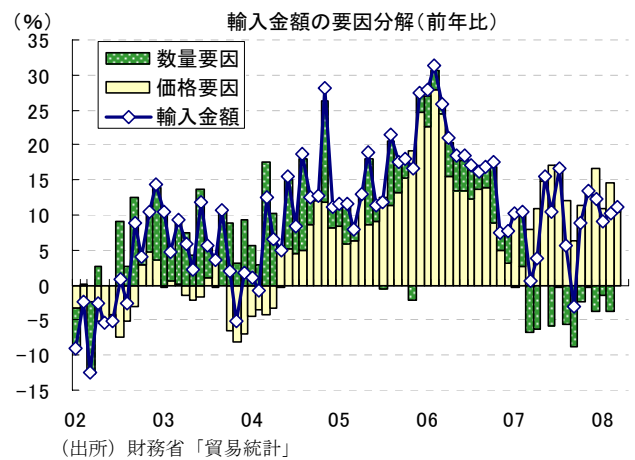
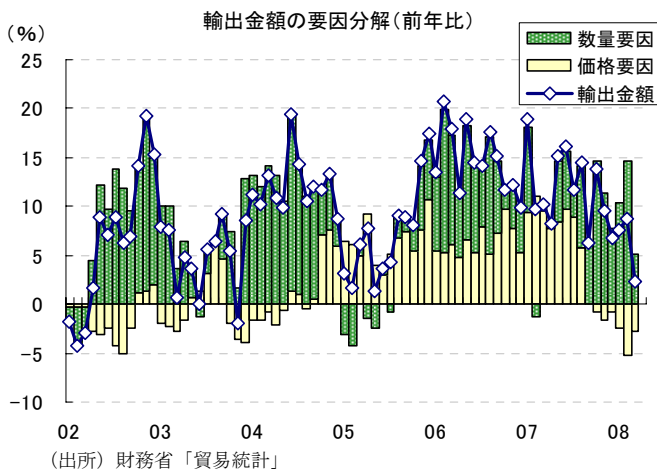
○1-3月期も外需は実質GDPを押し上げ

地域別(数量ベース)にみると、米国向け(前年比▲3.8%←前月同▲5.0%)は減少が続いたものの、減少幅は縮小した。EU向け(同+9.8%←前月同+15.7%)も1、2月の高い伸びからは鈍化したものの、テレビなどの部品やDVDなど録画再生機を牽引役に堅調さを保っているといえる。中東、ロシアなどその他地域向けについても自動車や建設機械、テレビなど映像機器を牽引役に好調な推移が続いた。こうした中、アジア向け(前年比+4.6%←前月同+16.7%)が急減速している。

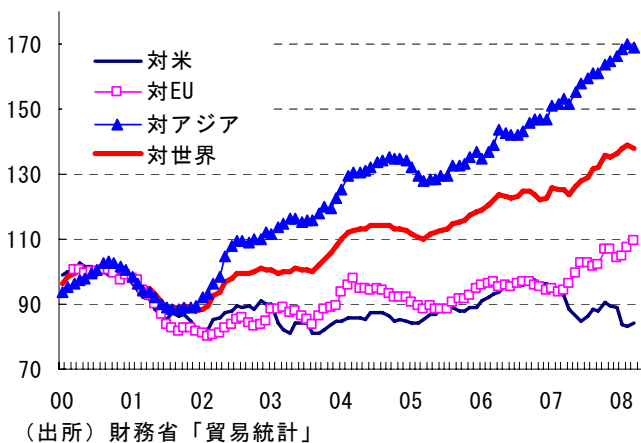
これまで輸出は、米国向け輸出の減少が続く中、アジア、新興国向け輸出の好調に牽引される形で高い伸びを維持していた。この牽引役の一つであるアジア向け輸出が3月に大きく減速したことは大きな懸念材料である。米国経済減速の影響が出始めた可能性も否定できず、今後の動向を注視していきたい。

ただし、3月については、昨年と比べると平日が1日少なかったことから、前年比で見ると伸びが押し下げられている可能性もある。当社試算の実質輸出（対世界、日数曜日調整済み）では前月比+5.0%と前月（▲4.6%）の反動もあり、高い伸びとなった。1-3月期でも前期比+2.8%（10-12月期：同+2.4%）と、輸出は堅調さを維持しているように見える。アジア向け輸出が減速に転じた、ひいては輸出全体の増加基調が変調をきたしたのかについては、4月以降の統計をみて慎重に判断したい。

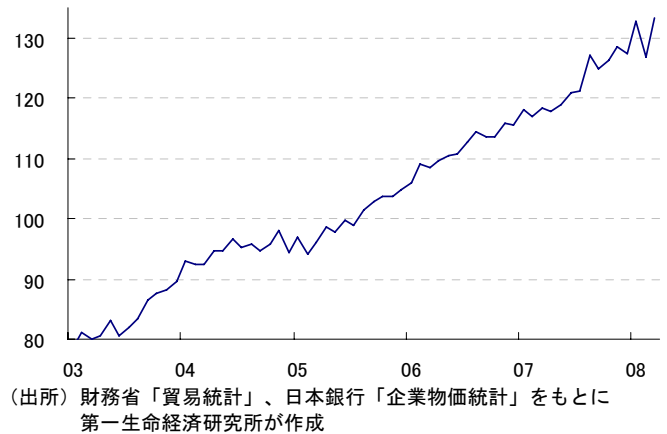
なお、1-3月期のGDPベースの輸出を試算してみると、輸出は10-12月期に続いて高い伸びとなった模様である。一方、輸入が内需低迷などを背景に低い伸びとなったため、1-3月期も外需はGDP成長率を10-12月期（前期比寄与+0.5%p）と同程度押し上げることとなりそうだ。



(00年=100) 地域別輸出数量指数の推移 (3ヵ月移動平均)



実質輸出指数(2005年=100)

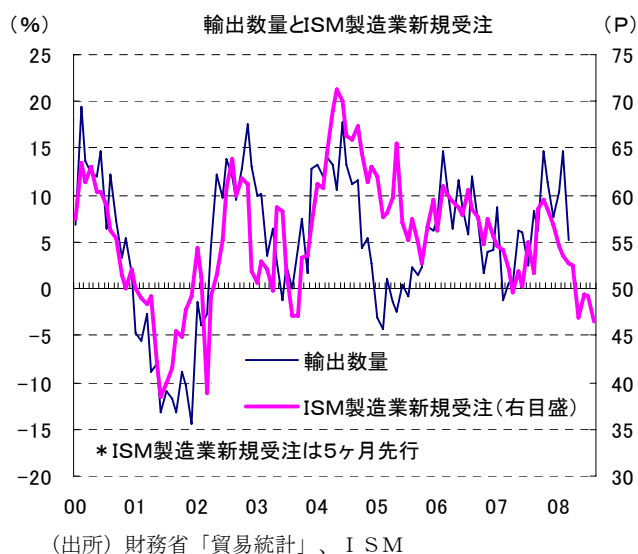
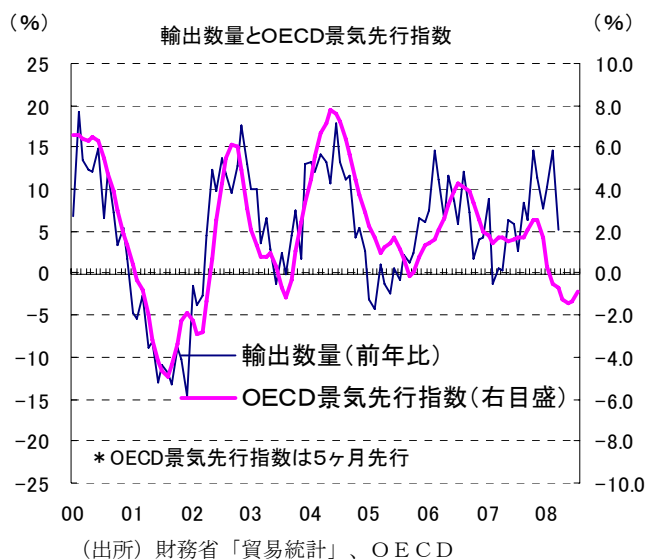


○輸出の先行き不透明感は強い

輸出の先行きについては引き続き不透明感が強い状況にある。米国景気については、住宅部門の調整が長引く可能性が高いことに加えて、雇用減少やマインドの低下などに伴って消費も減速が続いている。仮に、米国景気が予想以上に下振れ、調整が長期化・深刻化した場合には、アジア諸国や新興国経済にとっても悪影響が大きくなる可能性が高く、日本の輸出にも大きなマイナスとなろう。米国景気の調整度合いや、それを受けたアジア、新興国経済の動向には注意が必要である。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

当社では、所得税還付による消費の押し上げを背景に米国経済の一旦の持ち直しを見込んでおり、世界経済への影響は限定的なものに留まると想定している。そのため、消費や設備投資など内需拡大が続く中東、ロシアなどの新興国向けを牽引役に、輸出は拡大ペースが鈍化しつつも、増加基調が続く可能性の方が高いと考えている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。